



萬葉

知字多

全

4  
4358





千尋  
の  
う  
た  
に



才  
去

天  
日  
月

雷  
雨  
志  
々  
流

雪  
風  
嵐

廿  
二

春  
の  
は  
光

七  
夕  
初  
子

才  
去

國  
都  
少  
部

田  
山  
川

淡  
み  
ふ  
と  
鴻

雲  
霞

露  
雪  
霜

白  
る  
夏  
秋

白  
る

夏

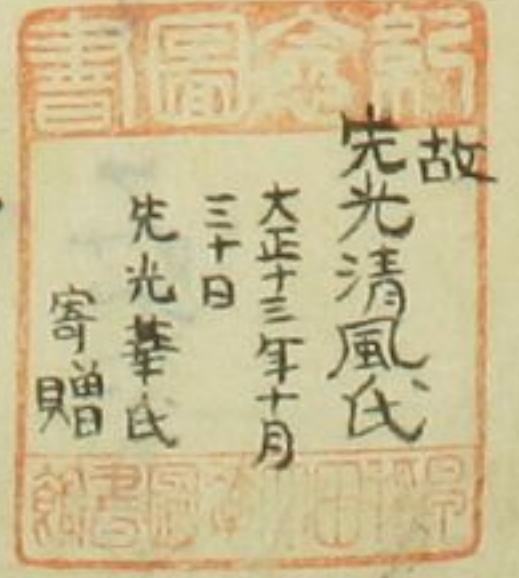
秋

里  
少  
部

津  
海  
浦  
少  
部

船  
浦  
少  
部

津  
船



才口

松 桧 杉 梅 柳 椿

菱 山吹 桜 桃 了ド 卯の茶

檜 榎 黄茶

こふ 急ぎ すみを ふでーこ 子れ茶

うきりき あやうき ぬふが 菱 秋

つららき とうけきー とうきりきの茶 くら

可き 芦 浪茶 しろ

才五

露 たう 苔 きれ ちさき 雲

粉 ふう 一 甲 ちさき 雲

麻 せん 日し ちんちん

同 才五

才六

神 お母君 片 父母 子 松人

海人 からき たい あき人 福ちけ人

くさ 仙

才七 才上

志しぬ人 いまおふ おもひ 道えぬ

あつてあつて 道えぬ ちんちん

姉 ふう おやき 久しき ちんちん

くま 人 ねむい ちんちん

おもしろ ちんちん ちんちん

ちんちん

廿八日下

いも 人妻 せこ 日下流ぬ 日下流ぬ

くさくさ ながぬ いつら かくやれ

人よき 中玄 人言 人目 名をとり玉

きやまぬ くやむ かくい 海 うむ いくさ

いささか いかん いちりて

うさむ ちさか 神よちふ 誰といふ とき

廿九 別 旅 旅 人とあふ

廿十 別 旅 旅 人とあふ

廿十 別 旅 旅 人とあふ

廿十 別 旅 旅 人とあふ

廿十 別 旅 旅 人とあふ

千奇 廿一

天

近江大津宮皇台御哥

万葉集卷之...

天の原をさげられし... 皇太后天皇の弟藤原古人大兄皇子の流女にて倭姫王と申して天皇の七年... 日

一ノ廿二

天の原をさげられし... 皇太后天皇の弟藤原古人大兄皇子の流女にて倭姫王と申して天皇の七年... 日

一ノ廿二

天の原をさげられし... 皇太后天皇の弟藤原古人大兄皇子の流女にて倭姫王と申して天皇の七年... 日

一ノ廿二

天の原をさげられし... 皇太后天皇の弟藤原古人大兄皇子の流女にて倭姫王と申して天皇の七年... 日

一ノ廿二

天の原をさげられし... 皇太后天皇の弟藤原古人大兄皇子の流女にて倭姫王と申して天皇の七年... 日

一ノ廿二

天の原をさげられし... 皇太后天皇の弟藤原古人大兄皇子の流女にて倭姫王と申して天皇の七年... 日





夏原八束

八ノ一 春りゆよ志を秋かきよめあけりハもみあき人さす心

佛前唱歌一首

八ノ五 志をのめさぬふあきし 只本ノ一ノ枝ハ紅葉スキテラス

十ノ五 一しとのお月ぬし 只本ノ一ノ枝ハ紅葉スキテラス

十ノ九 枝田る カトノメニ居ルカラスナルニ旅カテラス

十ノ一六 己く名の 吉肥ノナツニニギルシ

大伴家持

八ノ一六 さきし 吉肥ノナツニニギルシ

作者未詳

十ノ一 秋 人九集 大伴持集

日 早し 枝田 カトノメニ居ルカラスナルニ旅カテラス

中庭 中ね

四ノ一 庭 大伴坂上御女

作者未詳

十 秋 大伴坂上御女

十 霜 大伴坂上御女

霜

十 八 霜 大伴坂上御女

十 五 天 大伴坂上御女

天

十 二 天 大伴坂上御女

天

明日香清見奈天皇天大御歌

土ノ巻  
本原ノクワリニ里トアリコトハ  
谷川氏云本原ノ里トアリコトハ  
谷川氏云本原ノ里トアリコトハ  
谷川氏云本原ノ里トアリコトハ

和列ニ夫ノ名本原大日自トシテ  
又々手ヲ公ニ交テナシメテヨシ  
トシテ  
先祖各橋姓トナラオトス  
此ノ里ノ名本原トアリコトハ  
谷川氏云本原ノ里トアリコトハ  
谷川氏云本原ノ里トアリコトハ

同  
コトクニシテ

此ノ里ノ名本原トアリコトハ  
谷川氏云本原ノ里トアリコトハ  
谷川氏云本原ノ里トアリコトハ

六ノ二二  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

八ノ五十四  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

十ノ廿九  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

十ノ廿七  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

十ノ廿一  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

五ノ廿三  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

四ノ廿六  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

六ノ二二  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

九ノ二二  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

十ノ十九  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね

十ノ十  
あつ山のすけのむね

あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね  
あつ山のすけのむね





水陰... 水カケ... 水カケ...

十一ノ 十六 一の川み... 一の川み... 一の川み...

日 五セ... 五セ... 五セ... 五セ...

日 天の海やす... 天の海やす... 天の海やす...

日 きね... きね... きね... きね...

日 姉の... 姉の... 姉の... 姉の...

日 姉の... 姉の... 姉の... 姉の...

日 この... この... この... この...

十ノ 十一 一... 一... 一... 一...

日 あう... あう... あう... あう...

十ノ 十二 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

十ノ 十三 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

十ノ 十四 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

十ノ 十五 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

十ノ 十六 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

十ノ 十七 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

十ノ 十八 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

十ノ 十九 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

十ノ 二十 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

十ノ 二十一 一... 一... 一... 一...

日 一... 一... 一... 一...

大は家持

国

都

此の... 此の... 此の... 此の...

ニホフガ宣

六ノ四十五 五ホ郡 せの山崎のゆれハ都とあけぬ

十九ノ四十一 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

境部老麻呂

十七ノ十 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

十九ノ四十一 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

ふさぎ部

柿本人麻呂

一ノ十七 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

四ノ十 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

二ノ廿四 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

六ノ四十二 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

作部赤野

世の中ハつゝあけぬとやどさるあけぬのさこのつらうゆけハ

日ノ廿六 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

八ノ四十七 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

十九ノ四十四 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

五ノ五十七 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

二ノ廿四 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

六ノ四十二 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

世の中ハつゝあけぬとやどさるあけぬのさこのつらうゆけハ

日ノ廿六 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

八ノ四十七 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

十九ノ四十四 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

五ノ五十七 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

二ノ廿四 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

六ノ四十二 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

世の中ハつゝあけぬとやどさるあけぬのさこのつらうゆけハ

日ノ廿六 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

八ノ四十七 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

十九ノ四十四 大君ハ都ハあけぬのすむくみゆきをよこさふ

田

佐名未洋

十一ノ四十七 田の山四つ々々 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

田の山もさめさめと 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

田の山もさめさめと 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

山

明日香清見尔天宮天大御奇

一ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

二ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

三ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

四ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

五ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

六ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

七ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

八ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

九ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十一ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十二ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十三ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十四ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十五ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十六ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十七ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十八ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

十九ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

二十ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

二十一ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

二十二ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

二十三ノサバ 田の山もさめさめと 田の山もさめさめと

七ノ六 ぬまかのよるうけられす記むくの川きさるも水かきと

日七 大元のみその山のあひよちうほろまよりのまはれやけだ

日八 ころきふふふふふふのせきとやこおそくははのきつてやきく

日九 いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

日一〇 吾いふと姓ももらておをり又ふくえんふふふふふふふふふふ

日一一 うづり川流ぬふりてあふり人あふふふふふふふふふふふふふ

日一二 山ももあふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

九ノ一七 海 海上一のうみをさき 柳本入麻呂

八ノ一六 越前 越前 けしのあ 日知し海と三ノヨロヨキヲモラナキテ定テ知キ 柳本入麻呂

八ノ一七 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ一八 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ一九 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二〇 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二一 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二二 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二三 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二四 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二五 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二六 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二七 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二八 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ二九 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三〇 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三一 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三二 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三三 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三四 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三五 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三六 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三七 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三八 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ三九 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四〇 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四一 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四二 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四三 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四四 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四五 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四六 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四七 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四八 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ四九 浦 浦 柳本入麻呂

八ノ五〇 浦 浦 柳本入麻呂





大伴家持

十八ノ廿七 雲は上より下より 月夜より 風の来りて ありんか さいご

柳

大伴坂上御女

十九ノ廿六 くらげのうねののちのち 柳の春の 春とあはれなるが

伝名未詳

二十ノ八 浅みより 水久けしと 春の柳は 春の柳は 春の柳は

和名抄大和国高市郡 楮

一ノ廿四 巨勢 善上郡 山の上の つらき つらき つらき つらき つらき つらき

と孫

大伴四繩

二十一ノ廿 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き

大伴家持

二十二ノ廿二 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き

山吹

一厚見王

二十三ノ廿七 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き

楸

山部赤人

二十四ノ十五 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き

一厚見王

二十五ノ廿一 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き

久米御女

二十六ノ廿 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き

播磨娘

二十七ノ十九 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き

伝名未詳

二十八ノ九 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き 多き



十一九 さくふ時ハすきねとる人の意のけりといふちりん

日 一川の山のよきね梅よこのまきゆよちりていん

日 十 安海山のちくのまはりまかちりていん

日 春のよきねいふねてこの宮のまきのまきねん

日 たるさねはちりていん梅よ志をいんそめみまか

日 又後まきねのまよまね之咲いん

十九九 春のよきねけあめよまよけあ下るるまよいん

十七七 山をていんつのもまねいん

八ノ五 卯のま

八ノ五 卯のま

橘

寧樂宮天宮大御奇

六ノ五 橘ハ実又さあうそのまよけあしとていん

八ノ七 君の家の中いんこれハあまよけいん

十ノ五 新うねハあまつ由あていん

八ノ五 してまねくねいん

八ノ五 してまねくねいん

八ノ五 してまねくねいん

八ノ五 してまねくねいん

八ノ五 してまねくねいん

作者未詳



美友

同

七ノ廿二 君の秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

秋

同

七ノ廿三 位の秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

望合村

八ノ廿六 草花の秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

丹池園人

日 廿九 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

作の秋

十ノ廿二 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

日 廿三 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

日 廿四 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

十ノ廿六 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

十ノ廿七 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

日 廿八 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

大伴家持

十ノ廿九 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

秋

作の秋

七ノ廿二 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

大伴家持

十ノ廿七 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

秋

十ノ廿八 秋の心をしのびてしるすは神の御心よりのかき

作の秋

十一ノ四十六 一房の縁のさむくさむくやふくさの星の着ふふあつてさむく  
すさく 石門廣成

八ノ四十七 めつりさるるぬるあすさむくさむくさむくさむくさむくさむく  
サ 美濃守

七ノ四十八 <sup>故アリテヨメル</sup> <sup>有ナルシ</sup> めつりさるるぬるあすさむくさむくさむくさむくさむくさむく  
海草 <sup>直長云雨ラシナトヨムナキ軍ニ多シ</sup> <sup>延喜臨時祭式ニ難波湖</sup> <sup>伊予も亦あま</sup> <sup>直江守郡ニ瀬中</sup> <sup>郷アリ</sup>

七ノ四十九 <sup>名本</sup> めつりさるるぬるあすさむくさむくさむくさむくさむくさむく  
榎後宮子

八ノ五十一 榎新はさるるぬるあすさむくさむくさむくさむくさむくさむく  
寧樂宮天宮物大御命

八ノ五十二 けさの影を片うねさむくさむくさむくさむくさむくさむく  
七律

十一ノ五十六 めつりさるるぬるあすさむくさむくさむくさむくさむくさむく

才五

海

道九曰横田ハ全地各ミラズ只作良ミ地各ニテソノ所ノ甲キリ受知郡ニテ厚田ヨリ一里東  
成海ヨリ千里ニ登寺トイフ里アリノ里ヨリ一里ニテ佐倉村コトイフ村古ハ村キハ  
三手塩浦テ来リヨトシ今今ノ村ヨリ五里ニテ南ニテ佐倉村コトイフ村古ハ村キハ  
ノ里ノナルベシ

六ノ五十九 田 <sup>田ヨリノ居ル鳥ユニメツト云</sup> めつりさるるぬるあすさむくさむくさむくさむくさむく  
山 部 系 人 <sup>尾張島つ田を子所つくれたる在供し</sup> <sup>紀州上云津ノ尾張ノ御守田</sup> <sup>部トミテ尾張作良ナル</sup>

作名事洋

七ノ六十 ぶふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
日十八 めつりさるるぬるあすさむくさむくさむくさむくさむくさむく

大伴家持

十九ノ六十一 やい庵のすさむくさむくさむくさむくさむくさむく

その

作者未詳

六ノ廿四 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

大伴家持

八ノ十八 おきりし雪あつてさうはくはくさく人のこゝろよそふくも

十九ノ十八 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

丹比乙麻呂

八ノ十八 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

山部赤人

七ノ十一 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

大伴家持

八ノ十八 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

大伴坂上女

八ノ十九 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

作者未詳

九ノ十二 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

長白皇子ノ弟ノ弟ナリ  
弓削富子

二ノナレ 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

額田姫王

ハノ十一 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

志貴皇子

ハノ十一 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

刀理室令

ハノ十二 春の野に花の散るるをよみてはるるのさくきつるやうかたえん

大伴坂上女

古今和歌集  
ハノ十一モロヒキ

此集ニヨメルハ異國ノ杜鶴ヲ詠ルニ似タリ

ナダレハヒキヲ出スニ疑ヒイキヲ出シニハラクタメラフ心シ

天武ヲサス

長白皇子ノ弟ノ弟ナリ

八ノ廿八 いやふあしこりし君よほつき守られくあまりては

作者未詳

九ノ廿七 かきいらーあはれおとをなすき守りておくあはれあま

十ノ十八 藤してまじひすしほもきん藤あひ山にまよあけは

日 廿九 新そはねむくのくもさくのしほもきんいつきあうん

日 廿八 ちときあくあききや卯のまのあちるあま田まおく妹

日 廿七 かつき山卯のまお月おほもきんけんけんあうもさるんも

日 廿六 橋のあちるまよかひふら山ちるきんやうのさるんも

大付家持

七ノ廿三 あまーいあまの部いあうあまともあまはあま守あまあま

物

日

十ノ廿九 新いりのまきいれいよかきんあまあまのいりりりりり

新

作者未詳

八ノ廿九 かつきあまあまあまのあまあまあまあまあまあま

序

七ノ廿七 家さうり格くあまあまあまあまあまあまあまあま

九ノ廿一 あまあまのあまあまあまあまあまあまあまあまあま

日 廿二 さよ中とおあけあまあまあまあまあまあまあまあま

十ノ廿八 ちまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

日 廿九 ちまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

日 廿九 ちまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

日 廿九 ちまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

大付家持

七ノ十八 けさの鈴けあまあまあまあまあまあまあまあまあま

廿ノ十一 大正二年一月の頃ありさうよとの秋の紅葉いもみちあへんも

春の序 大伴家持

十九ノ八 ついでる時よあふれと一人の部もいつこまのくれんく

鴨 湯原の

十九ノ六 <sup>けしき</sup>しきあふれ <sup>山陰</sup>あふれ <sup>山陰</sup>あふれ <sup>山陰</sup>あふれ <sup>山陰</sup>あふれ

千尋 山部赤人

十九ノ七 <sup>後</sup>ぬるまのねのかけかけは <sup>後</sup>ぬるまのねのかけかけは <sup>後</sup>ぬるまのねのかけかけは

橋本人麻呂

十九ノ八 <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ

みやこころ 山部赤人

十九ノ九 ふるきふふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ

大伴旅人

十八ノ六 <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ

湯原の

十八ノ七 <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ

大伴坂下女

十八ノ八 <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ

山部赤人

十八ノ九 <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ

十八ノ十 <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ

十八ノ十一 <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ

大伴家持

十九ノ十一 <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ <sup>糸</sup>あふれ

山部赤人

さくら

鞍作主人

六ノヨ一

あつちのきりぎりすのうたのうたがきりぎりすのうた

作者未詳

十ノ四十一

みづのうたのうたのうたのうたのうたのうた

四ノ四八

夕たのうたのうたのうたのうたのうたのうた

さくら

八ノ十五

あつちのうたのうたのうたのうたのうたのうた

作者未詳

十ノ四十八

サ秋のうたのうたのうたのうたのうたのうた

蟋蟀

湯原あり

八ノ十八

あつちのうたのうたのうたのうたのうたのうた

作者未詳

十ノ四十一

あつちのうたのうたのうたのうたのうたのうた

四

うたのうたのうたのうたのうたのうたのうた



千歌 すまつを

卯六

神

山部赤人

刀部赤  
六ノナニ

神代よりゆめのみやまありかきいさききり山部をま

作者未詳

九ノナニ

山一らのうせのゆき坂神代よりまらさつて妹ハちとせり

ねむきま

柿本人麻呂

一ノナニ

山川もよろそつとる神代よりまらさつて船でせり

二ノナニ

大君ハ神代よりまらさつて大君のいづらの上より

大大臣橘云

十八ノ十

河原のよきと大君の御おとくといふとて

六



大伴家持

十八十二  
よきよのほろけ橋のいやらよ昔大君をたもつるふと  
おほきよのほろけ橋のいやらよ昔大君をたもつるふと  
たはは橋云々

十七ノ十三  
山雲の志はみまもよ大君つとえつとよはふともあやう  
るる八束

十九ノ十六  
清山よてね橋よけさつとえつとよはふともあやう  
寧楽宮天皇暇大御方

一ノ十八  
一ちほらよのほろけ橋のいやらよ昔大君をたもつるふと  
勅令小主ユカケトモノ吉良ツル  
ウチスルオト

二ノ十八  
一ちほらよのほろけ橋のいやらよ昔大君をたもつるふと  
トヨムベ別姓物部姓タロテ右ノ上柳井トナル  
今右ノ上ノ奇ヲ和スルナレハモノ、ナルベトモノ、臣トナリ

六ノ十八  
やきらののか柳ららとあつたよとのほろけ橋よ昔大君をたもつるふと

六ノ十八  
ちほらよのほろけ橋のいやらよ昔大君をたもつるふと  
多治比麻呂

十九ノ十二  
のほろけ橋のいやらよ昔大君をたもつるふと  
多治比麻呂

五ノ十九  
一ちほらよのほろけ橋のいやらよ昔大君をたもつるふと  
山上憶良

六ノ十六  
父母もあはまうらやちほら橋ハやくとも  
大郎黒當

五ノ十八  
志保のねもこのほろけ橋のいやらよ昔大君をたもつるふと  
山上憶良

四ノ十八  
やみ人の家の子どもは  
山上憶良

布衣のよ

六ノオニ 出づるはあすししよもあはれむとていふるのよはらわらうと

伝名未詳

九ノオ一 浪人のやうせんの一よあはれむとていふるのよはらわらうと

同

七ノオ四 吉本柱つゝるる人いふはよのほのこえをつくけやも

長念吉祥呂

六ノオ二 大なるのちまききくもあはれむとていふるのよはらわらうと

石川布衣

五ノオ七 かなうくは物にあもちる浪人のつすなふこのよはらわらうと

久保新次郎

四ノオ五 山の上の月さかひのよはらわらうと

伝名未詳

三ノオ三 志願あるのきよけはる風いふるのよはらわらうと

伝名未詳

二ノオ一 さふのいふ山頂の海あはれむとていふるのよはらわらうと

伝名未詳

一ノオ一 志願あるのきよけはる風いふるのよはらわらうと

同

七ノサニ 浪のいふからうとていふるのよはらわらうと

同

五ノオ七 かなうくは物にあもちる浪人のつすなふこのよはらわらうと

伝名未詳

七ノオ六 一の布よとていふるのよはらわらうと

伝名未詳

七ノオ六 一の布よとていふるのよはらわらうと

伝名未詳

筑前糟谷郡  
久保都津御神云海人今彦下ト入  
世ニソツメト云リクソツトハワラニテ  
袋ノヤウミアミタルモノシ

志願あるのきよけはる風いふるのよはらわらうと

志願あるのきよけはる風いふるのよはらわらうと

十一ノ九 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

ちん山

作名未詳

十二ノ九 ぶしそみすきやうのちん山かほ丸のこりておほよおほよかよふちけ人

仙

同

九ノ九 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

才七 相聞上

ちん山

十四ノ九 春山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

都皇極紀 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

大佐 紀伊 大和 下郡 下郡 下郡

作名未詳

十五ノ九 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

俗言

作名未詳

十一ノ二 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

十二ノ七 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

十三ノ九 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

俗言

十四ノ九 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

俗言

大佐 紀伊

十五ノ九 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

作名未詳

十六ノ七 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

大佐 紀伊

十七ノ九 ちん山かほ丸のこりて、のこりておほよおほよかよふちけ人

作名未詳

九ノサ六 こそがしらのこころのむまにけりかひのしらよふあるはのこり

十ノサ七 ぶれよのこころなきらんけれあめのすまつひあのみよぢふも

十一ノサ八 ありきののしほのこころのむまにけりかひのしらよふあるはのこり

十二ノサ九 へるもせむありの浦にけりかひのむまにけりかひのむまにけり

十三ノサ一〇 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

十四ノサ一一 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

十五ノサ一二 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

十六ノサ一三 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

十七ノサ一四 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

十八ノサ一五 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

十九ノサ一六 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十ノサ一七 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十一ノサ一八 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十二ノサ一九 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十三ノサ二〇 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十四ノサ二一 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十五ノサ二二 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十六ノサ二三 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十七ノサ二四 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十八ノサ二五 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

二十九ノサ二六 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

三十ノサ二七 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

三十一ノサ二八 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

三十二ノサ二九 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

三十三ノサ三〇 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

三十四ノサ三一 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

三十五ノサ三二 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

三十六ノサ三三 けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり

<sup>カキリノアルトニイフ</sup> けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり  
<sup>社名ハ必ズカレ故社ノ字ヲラ</sup>  
中邊をてのりかきりか  
大伴家持  
久米禰師  
石作仲女  
久米禰師

<sup>カキリノアルトニイフ</sup> けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり  
<sup>社名ハ必ズカレ故社ノ字ヲラ</sup>  
中邊をてのりかきりか  
大伴家持  
久米禰師  
石作仲女  
久米禰師

<sup>カキリノアルトニイフ</sup> けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり  
<sup>社名ハ必ズカレ故社ノ字ヲラ</sup>  
中邊をてのりかきりか  
大伴家持  
久米禰師  
石作仲女  
久米禰師

<sup>カキリノアルトニイフ</sup> けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり  
<sup>社名ハ必ズカレ故社ノ字ヲラ</sup>  
中邊をてのりかきりか  
大伴家持  
久米禰師  
石作仲女  
久米禰師

<sup>カキリノアルトニイフ</sup> けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり  
<sup>社名ハ必ズカレ故社ノ字ヲラ</sup>  
中邊をてのりかきりか  
大伴家持  
久米禰師  
石作仲女  
久米禰師

<sup>カキリノアルトニイフ</sup> けりかひのむまにけりかひのむまにけりかひのむまにけり  
<sup>社名ハ必ズカレ故社ノ字ヲラ</sup>  
中邊をてのりかきりか  
大伴家持  
久米禰師  
石作仲女  
久米禰師

作者名碑

十一五ま 春の影入舟のすきまを花うららめく  
 十一九 里人の山を巻く河のほとりなや神人よくかこむ  
 十一八 天雨の八重を空からりふらふのまよひのやもきこりこむ  
 十一七 志れをみるお山とこころのうらみのをよせしめらむ  
 十一六 きせ海のなごるの浦よの浪の春はうらむとあはれこむ  
 十一五 春の影のほのかの光る影ひびきかえりてよあそぶ人  
 十一四 あらうゆきなつとさして清水のたはりてよとこむ  
 十一三 世草の芽のちすひもとけもるをもあやめよとこむ

湯原

四ノオ六 秋の月をいふはささめ月のおくはのづかきとせ  
 四ノオ八 冬にけやうとらちの里をさぬるやあつと月もさく

大伴田村家之大嬢

四ノオ九 春さく河をばとびてもあつと里ゆく河をさす  
 四ノ一〇 秋の月をいふはささめ月のおくはのづかきとせ

作者名碑

十ノ一六 秋の月をいふはささめ月のおくはのづかきとせ  
 十ノ一七 春さく河をばとびてもあつと里ゆく河をさす  
 十ノ一八 秋の月をいふはささめ月のおくはのづかきとせ

土師水道

十ノ一六 春さく河をばとびてもあつと里ゆく河をさす  
 十ノ一七 秋の月をいふはささめ月のおくはのづかきとせ  
 十ノ一八 春さく河をばとびてもあつと里ゆく河をさす

丹波大娘

四ノ一八 春さく河をばとびてもあつと里ゆく河をさす  
 四ノ一七 秋の月をいふはささめ月のおくはのづかきとせ  
 四ノ一六 春さく河をばとびてもあつと里ゆく河をさす



十一廿二 夫の神の御心... 我の御心...  
日 廿一 夫の御心... 我の御心...  
十二廿二 夫の御心... 我の御心...  
十三廿三 夫の御心... 我の御心...  
十四廿四 夫の御心... 我の御心...  
十五廿五 夫の御心... 我の御心...  
十六廿六 夫の御心... 我の御心...  
十七廿七 夫の御心... 我の御心...  
十八廿八 夫の御心... 我の御心...  
十九廿九 夫の御心... 我の御心...  
二十三十 夫の御心... 我の御心...

大伴家持

十一廿四 夫の御心... 我の御心...  
十二廿五 夫の御心... 我の御心...  
十三廿六 夫の御心... 我の御心...  
十四廿七 夫の御心... 我の御心...  
十五廿八 夫の御心... 我の御心...  
十六廿九 夫の御心... 我の御心...  
十七三十 夫の御心... 我の御心...  
十八三十一 夫の御心... 我の御心...  
十九三十二 夫の御心... 我の御心...  
二十三十三 夫の御心... 我の御心...

大伴家持

十一廿七 夫の御心... 我の御心...  
十二廿八 夫の御心... 我の御心...  
十三廿九 夫の御心... 我の御心...  
十四三十 夫の御心... 我の御心...  
十五三十一 夫の御心... 我の御心...  
十六三十二 夫の御心... 我の御心...  
十七三十三 夫の御心... 我の御心...  
十八三十四 夫の御心... 我の御心...  
十九三十五 夫の御心... 我の御心...  
二十三十六 夫の御心... 我の御心...



久々

栞布人麻呂

四ノナレ  
とてあつて  
大和石止  
仲麻呂山のつみつきの久々  
コレ公布留山の神ノミブカキト云カケタリ  
コレツカキノシモノ宮ハ清代久シクツケリ  
布留ノ神社ハ建立アリシナリ  
大伴家持

三ノナレ  
とてあつて  
ヲイトト云心  
大伴家持

二ノナレ  
とてあつて  
陸奥国行方郡百太郎宮ノ真野ノ津ノ國  
道之上ノ約ハタノキ  
アテ年宛テモ心バコヨフニメトフ  
大伴家持

一ノナレ  
とてあつて  
思シモラモ何レト自ラ言レド  
コレコウキリヤウナルヲミル  
吾ノ心ハ我コノ丈夫トカ子テ思ヒ  
カキノ心ヲササケル  
及テヨキキカシク  
大伴家持

四ノナレ  
とてあつて  
門部  
一ノナレ  
思ヒモラモ何レト自ラ言レド  
コレコウキリヤウナルヲミル  
吾ノ心ハ我コノ丈夫トカ子テ思ヒ  
カキノ心ヲササケル  
及テヨキキカシク  
大伴家持

此ノカハ山田ニテ百太郎ノ名ハナドスル儀ナ  
シコト云ルレシコト云フニテモトイ  
ヤシノナル稱ナルレシ

此ノカハ山田ニテ百太郎ノ名ハナドスル儀ナ  
シコト云ルレシコト云フニテモトイ  
ヤシノナル稱ナルレシ

三ノナレ  
とてあつて  
カキノ心ヲササケル  
及テヨキキカシク  
大伴家持

二ノナレ  
とてあつて  
カキノ心ヲササケル  
及テヨキキカシク  
大伴家持

一ノナレ  
とてあつて  
カキノ心ヲササケル  
及テヨキキカシク  
大伴家持

四ノナレ  
とてあつて  
カキノ心ヲササケル  
及テヨキキカシク  
大伴家持

三ノナレ  
とてあつて  
カキノ心ヲササケル  
及テヨキキカシク  
大伴家持

二ノナレ  
とてあつて  
カキノ心ヲササケル  
及テヨキキカシク  
大伴家持

一ノナレ  
とてあつて  
カキノ心ヲササケル  
及テヨキキカシク  
大伴家持



十四日十二 かつたのいしうしちりきりあれはちてふいと

日二十十八 一つはよあるともそのまゝもきさるぬるをこころ

あひやう

大伴像又

日ノ四十六 春<sup>あき</sup>り<sup>い</sup>脚<sup>あし</sup>は<sup>た</sup>ぬ<sup>た</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>の</sup>の<sup>ま</sup>じ<sup>り</sup>は<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>は</sup>物<sup>もの</sup>は<sup>た</sup>ぬ<sup>た</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>の</sup>の<sup>ま</sup>じ<sup>り</sup>

大伴家持

日ノ四十七 あひいしきさいしにんは<sup>こ</sup>う<sup>じ</sup>て<sup>い</sup>う<sup>す</sup>き<sup>さ</sup>す<sup>し</sup>ら<sup>う</sup>

作名奉命

日ノ四十八 一のさしよとれりあひいしは<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>は</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ま<sup>ひ</sup>お<sup>も</sup>お<sup>も</sup>

日ノ四十九 一のさしよとれりあひいしは<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>は</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ま<sup>ひ</sup>お<sup>も</sup>お<sup>も</sup>

あひいしのいし

大伴像又

日ノ五十二 一のさしよとれりあひいしは<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>は</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ま<sup>ひ</sup>お<sup>も</sup>お<sup>も</sup>

大伴坂上大嬢

日ノ五十三 か<sup>か</sup>ハ<sup>ハ</sup>カ<sup>カ</sup>レ<sup>レ</sup>コ<sup>コ</sup>ト<sup>ト</sup>云<sup>云</sup>三<sup>三</sup>月<sup>月</sup>レ

大伴家持

日 一のさしよとれりあひいしは<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>は</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ま<sup>ひ</sup>お<sup>も</sup>お<sup>も</sup>

伝之由女

日ノ五十四 あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup> アツミはのふしはアハハは後ト云ヨリテ  
ウツミはのふしはアハハは後ト云ヨリテ  
拾遺 世之春ソレハタキノミライトイカサレヤマスハサホアワリニシヨラン

伝之由女

九ノ十七 一のさしよとれりあひいしは<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>は</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ま<sup>ひ</sup>お<sup>も</sup>お<sup>も</sup>

一ノ十七 一のさしよとれりあひいしは<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>は</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ま<sup>ひ</sup>お<sup>も</sup>お<sup>も</sup>

二ノ十九 一のさしよとれりあひいしは<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>は</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ま<sup>ひ</sup>お<sup>も</sup>お<sup>も</sup>

大伴坂上・御女

日ノ四十八 一のさしよとれりあひいしは<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>は</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ま<sup>ひ</sup>お<sup>も</sup>お<sup>も</sup>

大伴坂上・大嬢

世の中の色しきあやうけくはよとぞくちくちハ

作名未詳

十ノ廿七 花月のまげの月よあつともるく来まらぬ我のんやも

十一ノ廿八 ありし神もそれといつてふら志をや命のどしけはな

十二ノ廿九 ころもしてあきらまのさよをみよしやらん命のさく

大付あ特

十三ノ三十 一まのこ様うもまじあひさすいもすあしく我のんや

作名未詳

十四ノ三十一 夕月を彼あつともやの鏡うがし我のんやめあまのいひ

あて人といふ

十五ノ三十二 仔細の海のいもさるるよするん

あて人といふ

髪ノ揚ヒラ多と云馬タキ舟タキヤト  
馬ノリリ舟ノリアカルノヘンヌラメケル

十六ノ三十三 げばつとていごのびきき妹が嫁はせらん尺あま

生相之女

十七ノ三十四 人びとをいせしとげとらんとそんがえし

金角軍

十八ノ三十五 志はあひてこささぶ然ていこの後の小松ハ後も昔松

大付路何麻呂

十九ノ三十六 春や成すもの里のくち

作名未詳

二十ノ三十七 之はすけいさあさう時さハきくやあまの人の流

石川あ女

二十一ノ三十八 ありし神もそれといつてふら志をや命のどしけはな

大津百代

春や成すもの里のくち  
今水アフヒトモ  
今俗ニ云ヤトハ別ナルニ今云ヤキハ食ニ  
昔ニヨメルナキハ食ニスル物トモ昔ナク又  
延喜式可考

今俗ニ云ヤトハ別ナルニ今云ヤキハ食ニ  
昔ニヨメルナキハ食ニスル物トモ昔ナク又  
延喜式可考

年アリメル女ト云  
心算ナシ

母ノトナトノ年ヨサレヌコト云

宣云生左ノ誤ナルハシバアリヨシト云ムキナナルニ  
生三ノハハヨミカクアラシクシテヤハ

四ノサト、  
大付城上之御女

日 十六、  
沙弥満誓

日 十八、  
シロクカハリ

日 廿六、  
白

日 廿七、  
信右衛門

日 廿八、  
信右衛門

廿八相聞下

妹

近江大津宮天皇 大御哥

妹、  
高カ

後女王

柳平人麻呂

日 廿一、  
秋山

日 廿二、  
白

日 廿三、  
山上

大伴百代

四ノ十一 意志多人のらへせんいける日のくたらし姉をんかくはる

四ノ十二 石上あらしもあま<sup>セカシメ</sup>や姉<sup>ガ</sup>あそんとりひて<sup>カ</sup>物と

物有未得

七ノ八 少海へく海へあらしをよきまこころのそ昔きききき

二ノ七 志山よ夜旅系川いやるよ妹を自んたててくこくく

四ノ七 志山よ田の飯田の橋のなるもまけくもくもくもくもく

四ノ八 妹の目のんめくはもくもくもくもくもくもくもくもく

二ノ七 志山よ夜旅系川いやるよ妹を自んたててくこくく

四ノ七 志山よ田の飯田の橋のなるもまけくもくもくもくもく

四ノ八 妹の目のんめくはもくもくもくもくもくもくもくもく

二ノ七 志山よ夜旅系川いやるよ妹を自んたててくこくく

人妻

大將軍大伴御行

四ノ十八 柳<sup>カキキ</sup>のよひのうらみと<sup>二向</sup>くは人妻と<sup>ハ</sup>あれた物うも

柳を妻律

二ノ十二 己うせよよけうらみと<sup>ハ</sup>あつ山の女<sup>ハ</sup>のそくのそく

二ノ十三 昔ききよあまのそく<sup>ハ</sup>こころのそく<sup>ハ</sup>のそく<sup>ハ</sup>のそく

二ノ十四 己うせよよけうらみと<sup>ハ</sup>あつ山の女<sup>ハ</sup>のそくのそく

二ノ十五 己うせよよけうらみと<sup>ハ</sup>あつ山の女<sup>ハ</sup>のそくのそく

己うせよ

目を知らる

二ノ十六 己うせよよけうらみと<sup>ハ</sup>あつ山の女<sup>ハ</sup>のそくのそく

己うせよ

二ノ十七 己うせよよけうらみと<sup>ハ</sup>あつ山の女<sup>ハ</sup>のそくのそく

己うせよ

二ノ十八 己うせよよけうらみと<sup>ハ</sup>あつ山の女<sup>ハ</sup>のそくのそく

己うせよ

二ノ十九 己うせよよけうらみと<sup>ハ</sup>あつ山の女<sup>ハ</sup>のそくのそく

己うせよ

月令仲夏鹿解角上ヤリ鹿ノ角カハリ新角生メニ夕東ホトアルナノ同ナリ仲夏ト  
ワスニ  
云々  
ワノ十匹  
若狭白く  
山口女王  
山口女王  
山口女王

ワノ可こ 若狭白く 山口女王

大伴家持

ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王

ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王

大伴坂上女

ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王

ワノ可こ 若狭白く 山口女王

ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王

大伴池

ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王

大伴家持

ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王

大伴家持

ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王  
ワノ可こ 若狭白く 山口女王

伊名赤井

エノオハ あららしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
まらけ 海ららしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる

大伴坂止る女

日ノ字也 いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん

伊名赤井 伊名赤井 伊名赤井

日ノ字也 いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん

日ノ字也 いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん

日ノ字也 いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん

大伴坂止る女

日ノ字也 いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん

八代女

日ノ字也 いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん  
いしむる志をいしむるよとせし一足があまをいん

川渡八代ヨリサノ市(カヨララマ  
ワタルワタラフハカと不  
トキナリト成ラマハカ  
トキナリト成ラマハカ

伊名赤井 伊名赤井 伊名赤井

或云ふついでにこれのこゝろ



丹波大娘子

四ノ早八

垣のまゝ人々きこして色こころをいふあまのさのさ

作者未詳

十一ノ十八

あつたのみあまの山おくらけて口をいふあまのさのさ

作者未詳

人目

四ノ早

くつたの人のまゝいふのさのさいふのさのさ

大伴家持

四ノ早

人目あまのまゝいふのさのさいふのさのさ

作者未詳

十一ノ四

あまの山の橋のまゝいふ口をいふと人あまのさのさ

大伴坂上大嬢

四ノ早

こころいふまゝいふのさのさいふのさのさ

作者未詳

十一ノ六

あまの山のまゝいふのさのさいふのさのさ

作者未詳

山口女五

十一ノ七

あまの山のまゝいふのさのさいふのさのさ

大伴家持

十一ノ八

あまの山のまゝいふのさのさいふのさのさ

作者未詳

十一ノ九

あまの山のまゝいふのさのさいふのさのさ

十一ノ十

あまの山のまゝいふのさのさいふのさのさ

大伴家持

十一ノ十一

あまの山のまゝいふのさのさいふのさのさ

大伴坂上女

アサハルキニ同レトナリ  
トケサラニナクニ  
トケサラニナクニ



ナニナセ かめこいもがひつづらあそりしてよりうらやまのこほら

いしづらあそり

佐々木

ニナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

大伴坂上女

十四ナセ 上三ノ月 いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

佐々木

十ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

九ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

八ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

七ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

六ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

五ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

いしづら

佐々木

四ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

大伴

三ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

二ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

一ナナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

佐々木

ナニナセ あまがいづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

ナニナセ いづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

中は宅守

ナニナセ あまがいづら地のみきハもきたを野すしよあゆりよいしづらあそり

いしづら

佐々木





今年云 西岸トカケルモ次ノ西岸ニ准テ  
アノトヨムニシテ  
云モヤクナクシテ  
バノ十八

平王ノレ西三ノマニ昨夜ノソキ雨ニイヨ  
田カヲサス

大付坂上島女

バノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

日ノ十八 ちりりねくすのりねのさねね娘 やりねのさくくハ

獲表  
思フニモイヌモアルガ  
志心クサハ

神ノ大和國中郡作田神社  
ハルハトヒトクサス

廣河女

丹波大娘

大付田村大嬢

志願黒麻呂

平沼島女

須名未津

我ハすかも

十一ナセ

日

日ナハ

日

日

日

日ナハ

日

日ナセ

日

十一ノナセ

日ナハ

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

日ナハ

日ナセ

日

日ナハ

日

十一ナセ

日ナハ

日

十一ナセ

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

あはれなる心にてはなれぬものなり

ナセ

ナセ

大伯官女

九

姉うれとをせうりや古代

ニノタミ <sup>大和</sup>ふれとさうりかけて 曉をよこがしらぬき

和名備中下道郡三戸原ヲセトヨム

日 <sup>二人</sup>やけどしとさうりて 娘のそいそをんが <sup>おもう</sup>あし

依羅娘

ニノオノ <sup>ありあ</sup>と <sup>きり</sup>と <sup>あ</sup> <sup>アノ</sup> <sup>キコ</sup> <sup>い</sup> <sup>つ</sup> <sup>と</sup> <sup>さ</sup> <sup>う</sup> <sup>り</sup> <sup>て</sup> <sup>く</sup> <sup>こ</sup> <sup>う</sup> <sup>さ</sup> <sup>ら</sup> <sup>ん</sup>

三戸原

妹トワレトアヒ思フ心ノウツキハ三見ニガナト  
ワテ別シトスド列ヒカタルト

三河三見トクハカシタレモノナリ

日 <sup>二人</sup> <sup>や</sup> <sup>け</sup> <sup>と</sup> <sup>し</sup> <sup>と</sup> <sup>さ</sup> <sup>う</sup> <sup>り</sup> <sup>て</sup> <sup>は</sup> <sup>娘</sup> <sup>の</sup> <sup>そ</sup> <sup>い</sup> <sup>そ</sup> <sup>を</sup> <sup>ん</sup> <sup>が</sup> <sup>お</sup> <sup>も</sup> <sup>う</sup>

あし

依羅娘

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>み</sup> <sup>くの</sup> <sup>に</sup> <sup>の</sup> <sup>ろ</sup> <sup>も</sup> <sup>さ</sup> <sup>れ</sup> <sup>る</sup> <sup>バ</sup> <sup>コ</sup> <sup>キ</sup> <sup>も</sup> <sup>ミ</sup> <sup>れ</sup> <sup>も</sup> <sup>お</sup> <sup>も</sup> <sup>う</sup> <sup>る</sup> <sup>も</sup> <sup>也</sup>

筑紫娘

板本云  
コノ、ロス、ムナ

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>家</sup> <sup>の</sup> <sup>ふ</sup> <sup>し</sup> <sup>さ</sup> <sup>し</sup> <sup>ら</sup> <sup>ふ</sup> <sup>せ</sup> <sup>ら</sup> <sup>母</sup> <sup>の</sup> <sup>り</sup> <sup>う</sup> <sup>う</sup> <sup>に</sup> <sup>い</sup> <sup>し</sup> <sup>を</sup> <sup>あ</sup> <sup>き</sup> <sup>き</sup> <sup>ら</sup> <sup>の</sup> <sup>た</sup>

麻田陽春

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>大</sup> <sup>和</sup> <sup>は</sup> <sup>君</sup> <sup>ご</sup> <sup>ら</sup> <sup>り</sup> <sup>の</sup> <sup>ち</sup> <sup>り</sup> <sup>れ</sup> <sup>ば</sup> <sup>や</sup> <sup>う</sup> <sup>う</sup> <sup>う</sup> <sup>層</sup> <sup>も</sup> <sup>わ</sup> <sup>ら</sup> <sup>な</sup> <sup>め</sup> <sup>と</sup> <sup>ぞ</sup>

紀の女

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>お</sup> <sup>ん</sup> <sup>の</sup> <sup>神</sup> <sup>さ</sup> <sup>う</sup> <sup>き</sup> <sup>目</sup> <sup>と</sup> <sup>ち</sup> <sup>ら</sup> <sup>み</sup> <sup>の</sup> <sup>も</sup> <sup>ひ</sup> <sup>祇</sup> <sup>の</sup> <sup>り</sup> <sup>り</sup>

安信忠貞

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>む</sup> <sup>ら</sup> <sup>り</sup> <sup>て</sup> <sup>し</sup> <sup>れ</sup> <sup>ば</sup> <sup>あ</sup> <sup>ら</sup> <sup>る</sup> <sup>こ</sup> <sup>ろ</sup> <sup>は</sup> <sup>と</sup> <sup>ら</sup> <sup>ほ</sup> <sup>れ</sup> <sup>り</sup> <sup>も</sup> <sup>と</sup> <sup>ら</sup> <sup>は</sup> <sup>な</sup> <sup>り</sup>

依羅娘

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>河</sup> <sup>の</sup> <sup>系</sup> <sup>の</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>り</sup> <sup>て</sup> <sup>か</sup> <sup>の</sup> <sup>お</sup> <sup>の</sup> <sup>ほ</sup> <sup>い</sup> <sup>ま</sup> <sup>も</sup> <sup>あ</sup> <sup>ら</sup> <sup>し</sup> <sup>は</sup> <sup>む</sup> <sup>ら</sup> <sup>ん</sup>

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>い</sup> <sup>の</sup> <sup>浦</sup> <sup>の</sup> <sup>入</sup> <sup>り</sup> <sup>の</sup> <sup>す</sup> <sup>ま</sup> <sup>と</sup> <sup>ら</sup> <sup>も</sup> <sup>お</sup> <sup>も</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>れ</sup> <sup>て</sup> <sup>ま</sup> <sup>い</sup> <sup>ら</sup> <sup>な</sup> <sup>り</sup> <sup>也</sup>

日

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>大</sup> <sup>和</sup> <sup>は</sup> <sup>妹</sup> <sup>の</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>い</sup> <sup>の</sup> <sup>あ</sup> <sup>ら</sup> <sup>は</sup> <sup>は</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>り</sup> <sup>て</sup> <sup>お</sup> <sup>も</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>し</sup>

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>妹</sup> <sup>の</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>い</sup> <sup>の</sup> <sup>あ</sup> <sup>ら</sup> <sup>は</sup> <sup>は</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>り</sup> <sup>て</sup> <sup>お</sup> <sup>も</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>し</sup> <sup>も</sup>

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>海</sup> <sup>の</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>い</sup> <sup>の</sup> <sup>あ</sup> <sup>ら</sup> <sup>は</sup> <sup>は</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>り</sup> <sup>て</sup> <sup>お</sup> <sup>も</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>し</sup> <sup>も</sup>

日 <sup>オノ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>大</sup> <sup>和</sup> <sup>の</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>い</sup> <sup>の</sup> <sup>あ</sup> <sup>ら</sup> <sup>は</sup> <sup>は</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>り</sup> <sup>て</sup> <sup>お</sup> <sup>も</sup> <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>し</sup> <sup>も</sup>



まろ可七 己をとりあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

多治比作

まろ可七 己のいづつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

大伴家持

日オハ 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

河原中務

オノオ 又母のいづつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

日下部之申之母

日オハ 家つてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

日下部之中

日 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

今奉部與方布

日オハ 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

額田姫王

一ノ十 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

石上大臣麻呂

一ノサ 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

一ノサニ 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

山上憶良

一ノサニ 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

志保人白子

日 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

置始東人

日 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

日 志ぬさうあつてきぬ人時のまん命のこころに可なりとす

諸人をし  
道云 志保人白子  
ウチニシテトイハサスニノニロスレクサワスレシノニタマツモト

左右ノ羽ノキキアヒ  
志保人白子  
一ノクワラミニ又レバトエホドノ一

志

伊勢方

志保人白子

志保人白子



田川サカサカサレド紀國三  
北へシコララスルガトスルハ誤ル

下佐ナリ田川三ノ  
イホサキハ駿河ノ藤原郡ヲ  
直隸ニテ三ノ路モアルハ  
田川トイヒレシヤ  
○田川トイヒレシヤ  
○田川トイヒレシヤ  
○田川トイヒレシヤ

二ノ十四

姉のつとみきりけしとまのこころんまきりさしと

大伴家持

六ノ十四

関ふくハ一りしとまおとせし妹こころんまきりさしと

十ノ十九

さしとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

同

さしとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十八

みさしとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

若當左侍疏云以今觀之不可一日而無律若夫更不及古民傳放古者為是聖人作法不能經遠古今之故何以異也抑嚴經云為是此  
欽明紀野放是許批臣同王子惠曰若夫欲留此間為欲本鄉中  
古ノ記録數三毛考必ト云ル一往見エ

一ノ十八

一ノ十八 野の山の行のつとみきりさしと

九ノ九

さしとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

同十

さしとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

十ノ十六

あつとれくあつ月男の妻こころんまきりさしと

日廿九 家路ハ右ノ事ヨリ

十七 七 兄ノ事ヨリ

日 津路

日 大海

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

日 大

若櫃越之書

大田部

大田部

大田部

大田部

大田部

大田部

大田部

大田部

大田部

大田部

大田部

大田部



一ノオニ

ヒナメシ

河の山もやもみり人あはれとてみりし時

山部 赤人

六ノ十ニ

河の山もやもみり人あはれとてみりし時

大伴 家持

七ノ一ニ

かきつらきあはれすりつげすしよききひ頼す月

大伴 家持

本年上旬八間をノリ序ナラシムハ  
リモアルケドモ又間をハカシラ  
クタ、若織ト云カレリ序ニテ  
チアルベキカ

酒の海人のさるきさのさるき

阿 虫 麻呂

八ノ一ニ

秋のゆめもさふまをば飛んでこい

大伴 村正

九ノ一ニ

五月のあはれしよらひねをわらも

置始 長谷

一ノ十二

山吹のさつしあはれんわつとも

馬 國 人

二ノ十九

くさねのあきふりハハハハハハ

皇太子 大炊 御 前

三ノ十六

大地をさる月日のきらみあり

内大臣 藤原 仲 麻呂

四ノ

天地のさるあはれ

大伴 旅 人

カミノウチノモフチモシリニキキ他ニ物ハ酒  
ハモハジトナラハシ  
沖ノ波ハ物ヲ思ハシトナラハシ

五ノ一

酒のさるあはれ

六ノ

酒のさるあはれ

七ノ

酒のさるあはれ

八ノ

酒のさるあはれ

日 はんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

母太良年

母野国云云...

備後国三宅三原酒トテ各物アリ  
酒の人の名サセル  
魚養の年と入る

### 近江大津宮大后御の奇

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

此奇ヲ新古今ニナラナラノ奇ナリ  
大サ又奉ルヲミテ人オトアリ  
大誤ニハナク云

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

日 かんすぜんすでちよよきいりるんんんんんんんんんんんんんんんんん

室間源居於玉二  
ハ又ハ云

### 舟生女

備前夜夜郡  
縣守三ツコト使ニホリスグニ民臣ニ任シテ三ツコトヘリコト又ニ三ツ酒  
ヲヒトリノカトナリ

トキ水ノニニトゴシリノカンフ又用ニ





大伴の家持

口をまて、  
火まきハ、  
あしきまの山さへりて、  
おとす昔大足も

伊勢鈴鹿郡  
阿上ノ山

祝

ユハイホツノ上君ニ、  
シケキルシ、  
イハムラハ船右ノ多キニ、  
ト知ル同船ヲ、  
ト知ル同船ヲ、

吹黄刀自

我事奇カイワニモ  
ワカリ居テ、  
嚴ミタキトシ

海大志民足麻呂

六ノホ  
天地のさうむ、  
あからむハ

ハナレ  
太上天宮に大御命

太上天宮に大御命

日々に  
あはれむ

大伴の家持

十七ノ二  
十八ノ二  
すえらるきの御代さる人何りよありみちの山よ

おのゝあはれ



